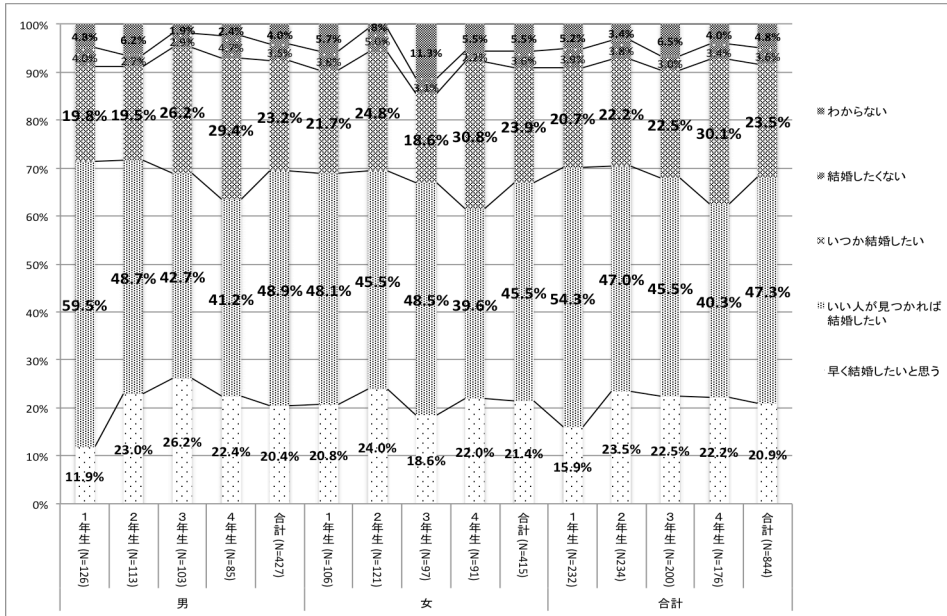


④結婚と子どもをもつことに対する考え方について見えること

最後のセクションでは、Q14 から Q16 の結婚と子どもをもつことに対する考え方をたずねた質問に対する回答を検証する。

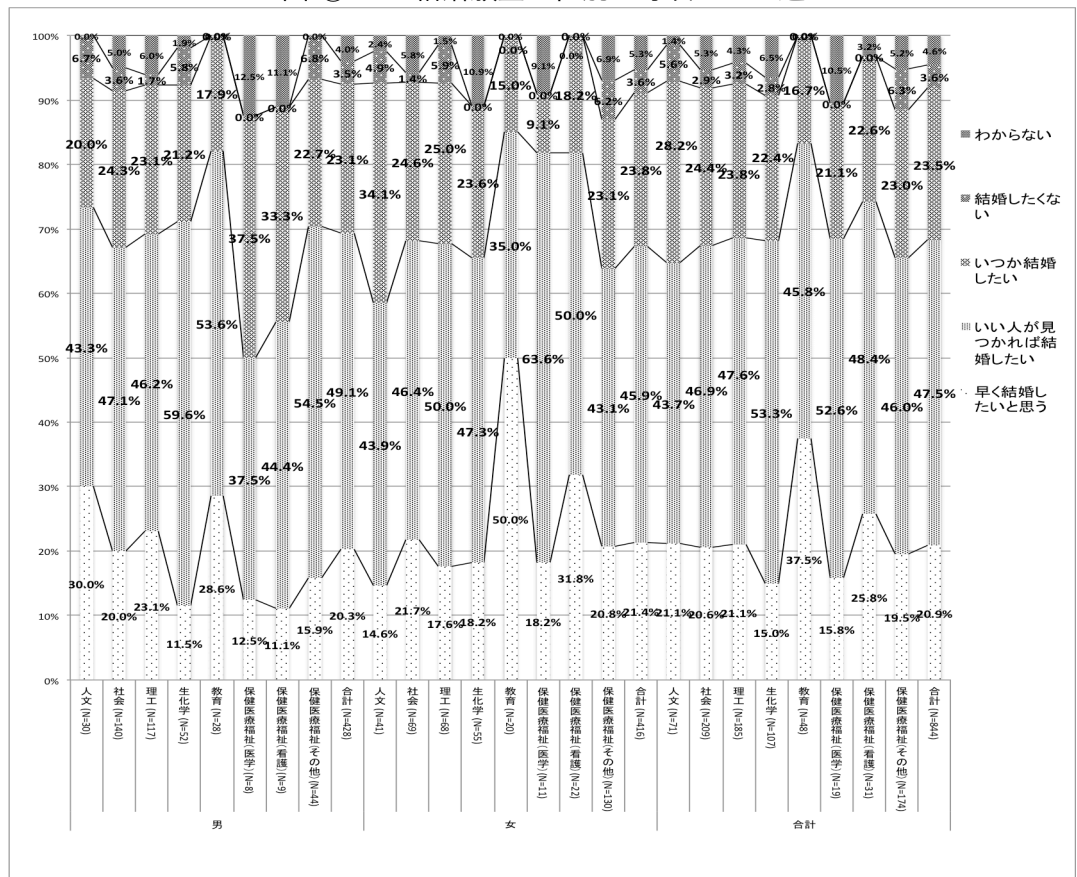
図-④-1 結婚願望の性別・学年による違い



結婚したいかどうかについて性別と学年による違いを検証したが、男女間、学年間で有意な差はみられなかった。9割の回答者がいつかは結婚したいと考えている。

注) 分析にはχ²乗分析を用いた。有意差なし。

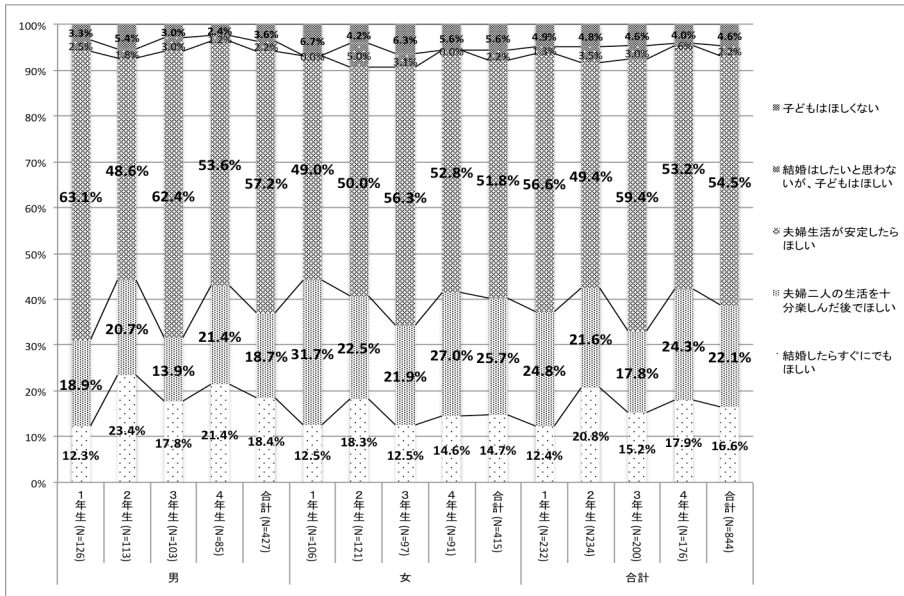
図-④-2 結婚願望の性別・専攻による違い



性別と専攻による違いを検証したが、学年の場合同様、男女間、専攻間の有意差はみられなかった。教育系で早く結婚したいという割合が高いのが特徴的であると言える。

注) 分析にはχ²乗分析を用いた。有意差なし。

図-④-3 子どもをもちたいかどうかの性別・学年による違い



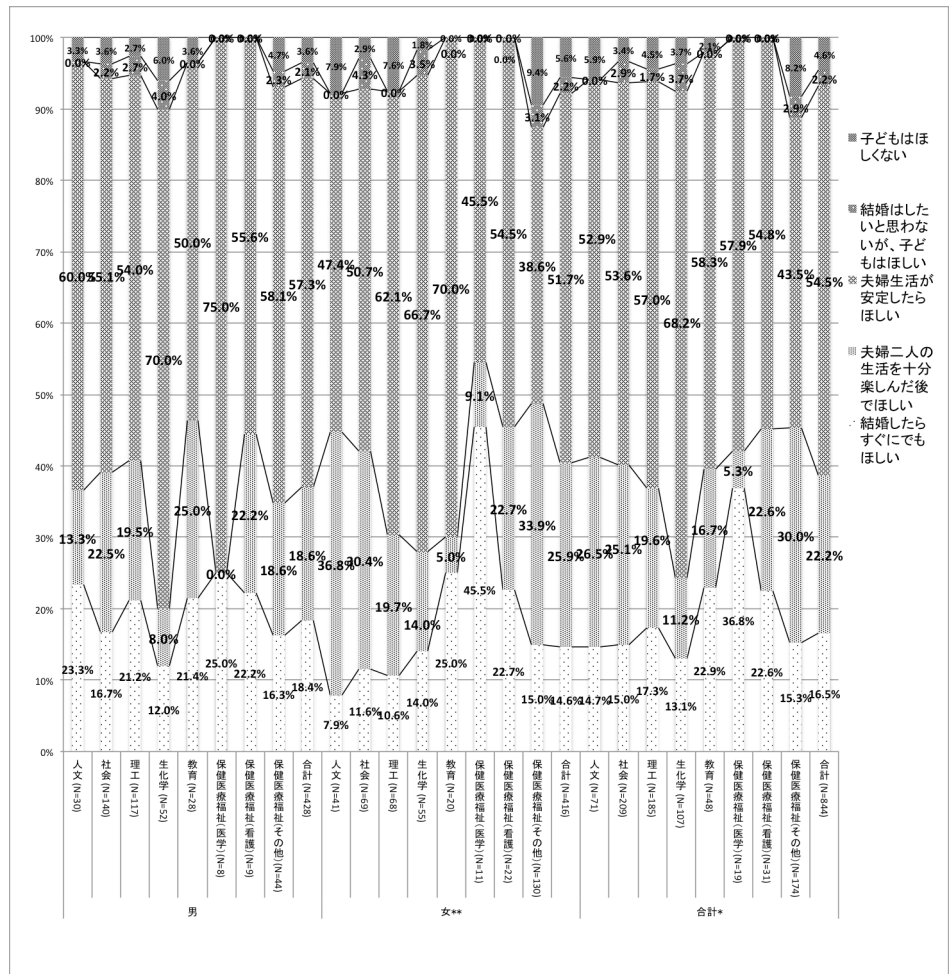
注) 分析にはχ²乗分析を用いた。有意差なし。

次に、子どもをもちたいかどうかについてたずねた質問に対する回答から、まず、全体的な傾向として、「夫婦二人の生活を十分楽しんだ後でほしい」という回答が5割程度ある。

性別と学年による違いを検証したが、男女間、学年間で有意な差はみられなかった。

学年があがれば結婚願望や子どもをもちたいという気持ちが高まるものでもないようだ。

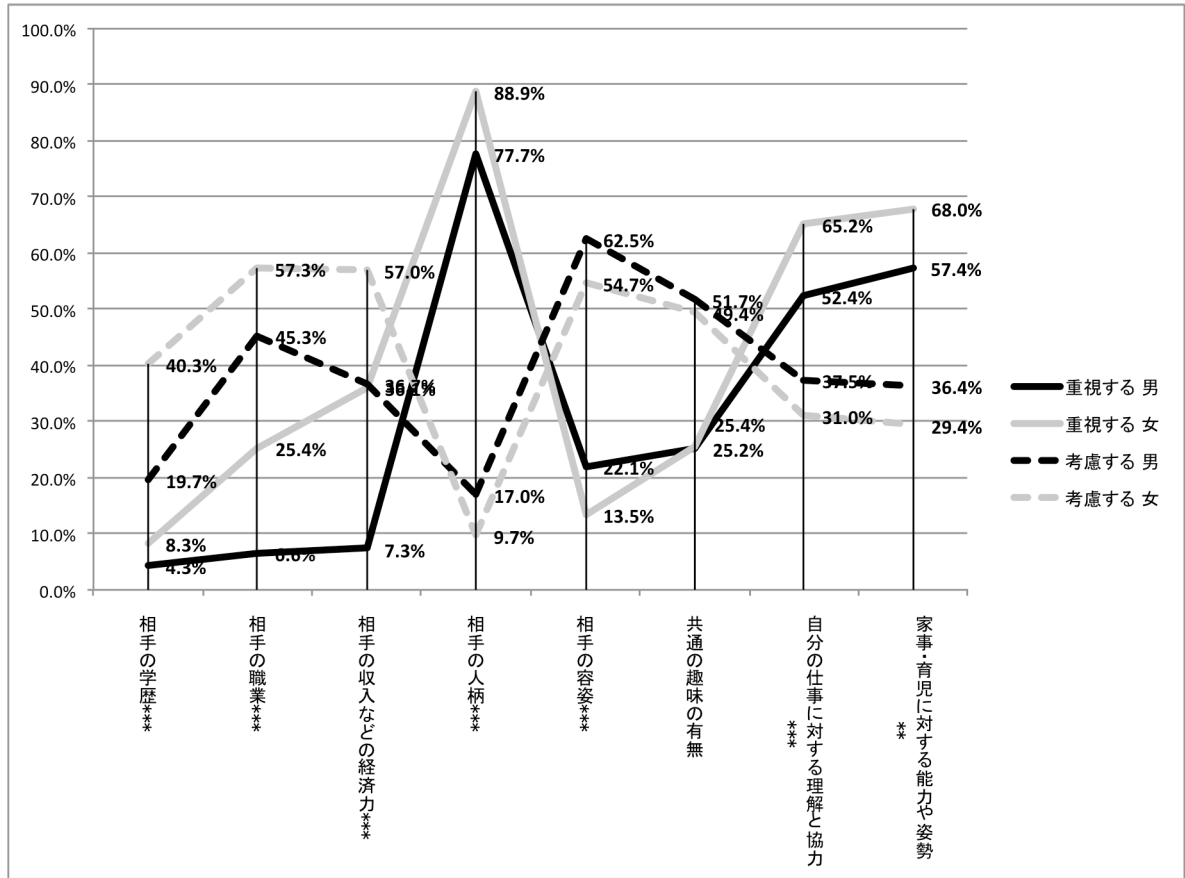
図-④-4 子どもをもちたいかどうかの性別・専攻による違い



注) χ²乗分析を用いた。χ²乗値に関して有意確率(両側)が**:*p*<.01, *:*p*<.05。

性別と専攻による違いを検証してみると、専攻間で統計的に有意な差があり、その違いは女子の中で見られるものであることがわかる。特に、女子の医学系と教育系で高いが、これは専門性が高く卒業後の職業が確定していることもあり、ライフプランやキャリアパスをイメージしやすいということも関係しているかもしれない。また、教育や医療という専門の特徴(子どもや命と接する)ことも関係しているかもしれない。

図-④-5 結婚相手を選ぶ際に考慮することの男女による違い



注) χ^2 乗分析を用いた。 χ^2 乗値に関して有意確率(両側)が***: $p < .001$, **: $p < .01$ 。

最後に、結婚相手の条件についてたずねた質問項目の回答の男女差を見てみたい。「共通の趣味の有無」を除き、他の全項目で男女間に統計的な有意差が見られた。

男子が女子よりも重要視するのは「容姿」であり、それ以外は女子の方が男子よりも重視または考慮する傾向がある。固定的性別役割認識では、家庭の経済的な扶養は男性にあるということに対して否定的な回答が男子よりも女子に多かったが、より具体的に結婚相手を選ぶとなると、経済力やそれに関連してくる職業や学歴はやはり重要な考慮すべき事柄であるようだ。同時に、女子では特に、女性が働き続けるためには、パートナーの「仕事に対する理解」や「家事や子育てに対する能力や態度」が重要であることも十分認識されているようである。